

道徳通信

大田区立馬込第三小学校
道 徳 部
令 和 5 年 5 月 1 7 日
第 1 号

令和5年度が始まり、1か月が過ぎました。新しい学級にも慣れ、生活や学習に精一杯取り組んでいる子供たちの様子を見ると、とても嬉しくなります。学校では、国語や算数、体育などで様々なことを学びます。国語では、物語を読んで登場人物の気持ちを考えたり、説明文を読んで要旨を捉えたりします。算数では、計算をしたり図形を描いたりします。体育では、体を動かして運動します。では、道徳では、どのような勉強をするのでしょうか。道徳は、何のために勉強するのでしょうか。今回は、「道徳科では何のために勉強をするのだろうか」ということを、考えていきたいと思ひます。

道徳科では何のために勉強するのだろうか



学校は、週に1時間行われる道徳科の授業と、日常の中で行われる道徳教育があります。週に1時間行われる道徳科の授業は、教科書を使用することが多いです。教材を読み、考えたり感じたりしたことを話し合います。一方で、日常の中で行われる道徳教育は、学校生活の中で常に行われています。例えば、週の始めの月曜日、朝会で「今週の目標」を伝えます。「廊下は右側を歩きましょう」「友達と仲良くしましょう」などです。また、給食では「食べ物や作ってくれた人に感謝の気持ちをもち食べましょう」「好き嫌いなく、食べましょう」などの指導を行います。これらも道徳教育です。道徳科の授業と、日常の道徳教育には大きな違いがあります。道徳科の授業では、すぐに行動を変えることを求めています。道徳教育では、すぐに行動を変えることを求めています。もし、廊下を走っている児童がいたら「廊下は、走りません。歩きます」と、指導をします。「走る」から「歩く」へと行動を変えることが目的です。

道徳科では、行動を変えることは求めず、内面を耕すことを大切にしています。他律から自律へと向かうために道徳科での勉強があります。他律とは、「人に言われたから」「褒めてほしいから」「怒られたくないから」などの理由による行動と考えられます。自律とは、「自分がやりたいから」「すっきりするから」「やらないと、もやもやするから」などの理由による行動と考えられます。小学校6年間と中学校3年間をかけて、他律から自律へ向けて毎週1時間、年間35時間、9年間をかけて内面を育てていきます。ですから、道徳科では「今すぐ」行動を変えることなく、自分で考えて自ら行動するための内面を耕すことを大切にしています。そのためには、しっかりと考えたり、話し合ったりして、様々な考えに触れることが必要です。道徳科の教材を通して、「自分だったら、どう感じるだろうか」「友達の考えと比べてどうだろうか」などを話し合います。このようなことを通して、自分自身の内面と向き合うことができるようになると思ひます

他律

- ・人から言われた
- ・ごほうびが欲しい
- ・ほめられたい
- ・怒られたくない

自律

- ・自分がやりたい
- ・すっきりする
- ・やらないともやもやする

裏面へ

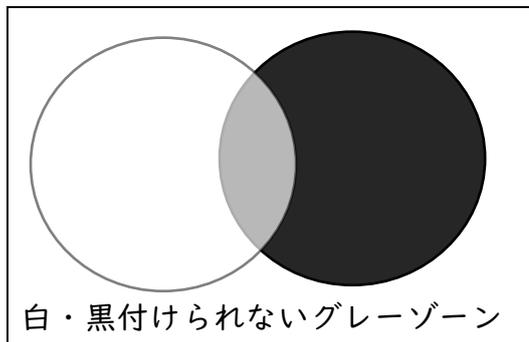
WBC の侍ジャパンの優勝と高校野球

2023年3月に開幕した WORLD BASEBALL CLASSIC は、日本チームが優勝し、その様子が大きく報道されました。準決勝のメキシコ戦での逆転勝利、決勝戦での大谷翔平選手とマイク・トラウト選手との直接対決に日本中がわき、日本チームの勝利を喜びました。大谷選手が三振を取り、優勝が決まったその瞬間、帽子とグラブを投げ飛ばして、喜びを前面に表した映像は、何度もテレビで放映されました。「ふだんは、冷静な大谷選手が感情をむき出しにして喜んでいた」「感情が爆発した」などと報道されました。大谷選手が投げた帽子は、米野球殿堂博物館に収蔵されたそうです。

同じ時期に、春の高校野球が行われていました。もし、高校野球で優勝したチームのピッチャーが帽子とグラブを投げ飛ばしたら、どうでしょうか。「優勝して、感情が爆発した」「嬉しい気持ちやチームへの思いがあふれたのだろう」という意見の他に、もしかしたら「高校球児として、慎むべき行動なのではないだろうか」「相手のチームに失礼だろう」という意見が予想されるのではないのでしょうか。それは、なぜでしょう。成年と未成年の違いでしょうか。成年なら称賛されて、未成年だと称賛されないということはあるのでしょうか。剣道や柔道、相撲などでは、勝ったときに喜ぶことは相手に失礼だという考えもあります。ただ、野球はチームで戦う競技です。個人で行うスポーツと集団で行うスポーツとでは、喜ぶことに違いがあるのでしょうか。考えれば考えるほど、どのように行動することが正解なのか、悩んでしまいます。

私たちの、身の回りには、何が正解で何が不正解なのか、分からない問題がたくさんあります。

道徳科の授業の中でも、白黒付けられない問題を考えることがあります。



このグレーゾーンの感じ方や考え方は、人それぞれです。いろいろな考えに触れることで、自分では気付かなかったことを考えることができます。また、自分の考えを、改めて見つめることにもつながります。何が正しいのか、何が間違っているのかということではなく、それぞれの人が、どのように感じているかをしっかりと見つめる時間が、道徳科の授業です。

「嘘をついてはいけない」ということは、誰もが分かっています。しかし、相手を思って本当のことを言わない場合もあります。生活の中には、理屈だけで行動することが難しい場面があります。それは、人の思いや願いなどは理屈を通すことで解決できることではないからでしょう。多様な考えに触れることで、白黒付けられない課題について、一人一人が真剣に考えることが大切なのだと思います。

不定期ではありますが道徳通信を発行して、御家庭の皆様と一緒に、道徳教育や道徳授業について考えていきたいです。ぜひ、お読みいただき、御家族の中でも話題を広めていただけると幸いです。

